



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ケースメソッド授業について

5

ケースメソッドとは何か

ケースメソッドは授業のやり方の一つである。この授業のやり方をする講師は、受講者と一緒になってクラス全体で討議、すなわちディスカッションしながら授業を進める。ディスカッションはケース教材（経営の事例が記述された冊子）をもとに行う。受講者はケースから考えられる問題について様々な角度から意見を出しあい、ディスカッションする。講師はクラスの議論が有益な展開になるように論点の流れの舵をとる。

10

言うまでもなく、ケースメソッドは米国のハーバード大学ビジネススクールで20世紀の初頭に開発された教育方法である。今日、世界の多くの教育機関が、経営教育のみならず様々な分野の実践的教育でケースメソッドを用いている。わが国では、慶應義塾大学ビジネススクールがケースメソッド授業をその中心に据えている代表的な教育機関である。

15

何かを「教わる」メソッドではない

ケースメソッドは、我々が受けてきた伝統的な教育方法である講義方式と比べて、著しく異なる特徴をもっている。第一に、講師は自説を述べたり、講義したりしない。クラスの討論にきっかけを与え、議論の進行の舵をとる。第二に、「ケース」を教材として使う。ケースにはある経営活動の実際の様子が述べられているだけで、講義方式の授業で使う「教科書」とは全く異なる。

20

ケースには受講者が学ぶべき知識とか理論が書かれていない。かといって経営学上の例題でもない。「例題」とはある理論の典型的な実例が書かれたものを言うのであるが、それは現実の多様性を捨象した典型部分のみである。ケースは実際に生じたことのありのままであり、適切な例とも不適切な例とも言えない。

25

またケースは演習問題でもない。「演習問題」とは講義された理論の理解を深めること

30

このノートは、ケースメソッド授業に参加する人々へのガイダンスとして書かれた故高橋吉之助教授の「ケースメソッドについて」をもとにしつつ、教授高木晴夫が作成した。

© 2000 慶應義塾大学ビジネス・スクール